

6. 情報提供・研究・出版事業

— 毎月3,000部を全国に“発信”。研究活動も強化。新刊3点を発刊。書籍の利用総数は3,944冊。

市民活動を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、新たな状況と課題に対する適切な論評が求められている。現に協会には市民活動などに関して多くの問い合わせがある。こうした社会的ニーズに応えるべく、2009年度もさまざまなオピニオンを発信した。

ただし、市民活動総合情報誌『ウォロ（Volo）』は会員の退会や自治体合併の影響もあり、購読件数がやや減少し、購読料収入、広告料収入ともに予算を下回った。

一方、出版部門では『こうだったのかNPOの広報』『寝ても覚めても市民活動論』『福祉小六法2010』の3冊を新たに発刊。当協会の発行図書は全国の市民活動関係者などに活用されている。2009年度は、約397万円の売り上げと約189万円の印税収入があった。

1. 市民活動総合情報誌『ウォロ(Volo)』の発行

(1) 発行部数【毎月平均 3,000部】

市民活動関係者やボランティアセンター、研究者、NPO、企業の社会貢献部署、社会福祉施設、大学、自治体などを中心に全国の読者に発信した。

発送者は図のように全国に広がっており、全体の約7割は大阪府外となっている。なお、発行費用の一部に大阪府共同基金会の配分金を活用している。

年間購読料 5,000円（送料込）※購読料を改定

(2) 内 容

多くの連載コーナーがあるが、特集とV時評のみ報告する。

<特 集>

- 4月号 若き市民のソーシャル・アクション
- 5月号 「検定」という市民運動
- 6月号 「見る」戦争体験 ～その市民的活用法
- 7・8月号 献体 最後のボランティア
- 9月号 ネット社会における市民活動の選択肢
- 10月号 ベーシック・インカムがやってくる！
- 11月号 記録は、人の中にこそ ～生かし続けるための市民的アプローチ
- 12月号 市民活動における「農」のあたらしいかたち
- 1・2月号 「ボランティア・市民活動」目線でみる『作品』の中の彼・彼女
- 3月号 花子と太郎の「公益法人制度改革」大研究

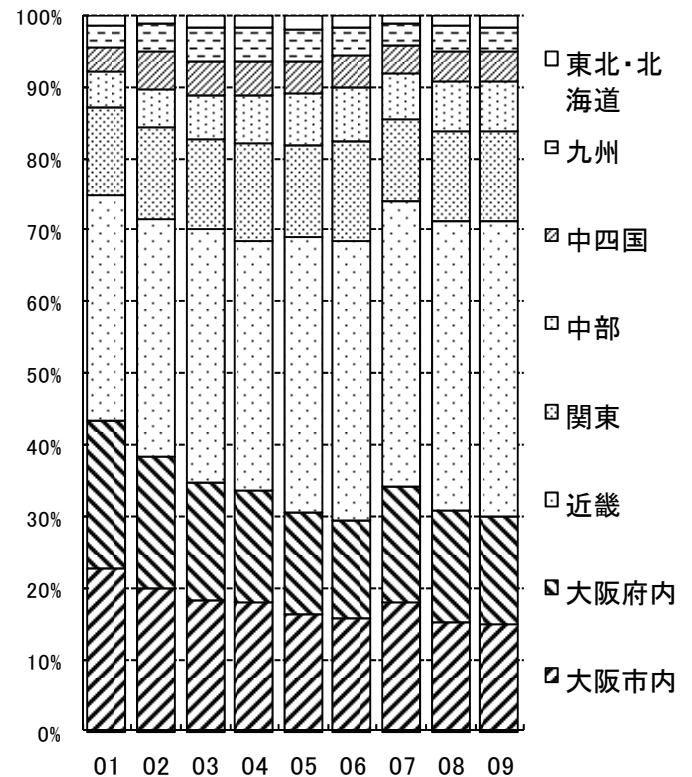
<V時評（論説欄）>

- 4月号 もっと議論を！ もう一つの民意の回路「討議デモクラシー」
- 5月号 寄付が進める信じ合える社会づくり
- 6月号 漂流するボランティア ～ボランティアの兼業と越境の勧め
- 7・8月号 「最後は役所にお任せ」は、もう止めよう
- 9月号 変革の担い手はだれ？ ～分権の器に「魂」を
- 10月号 ボランティアリズム研究所が目指すもの
- 11月号 ボランティアコーディネーション力検定が意味するもの ～社会関係の創出と協働の基盤づくりへ
- 12月号 「巻き込まれる」ことの意味
- 1・2月号 揺らぐボランティア・・・権利と義務の間で
- 3月号 白紙委任をしないために 「滅私奉公」－「活私」－「活私開公」へ

<新設コーナー>

2009年度は4月号から「ぼいす&シャウト！大阪ボランティア協会・事務局スタッフの仕事場から」、「ファンドライジングが社会を変える」、「おしゃべリアゴラ」の連載を始めた。

図6-1 全国に広がる発送先

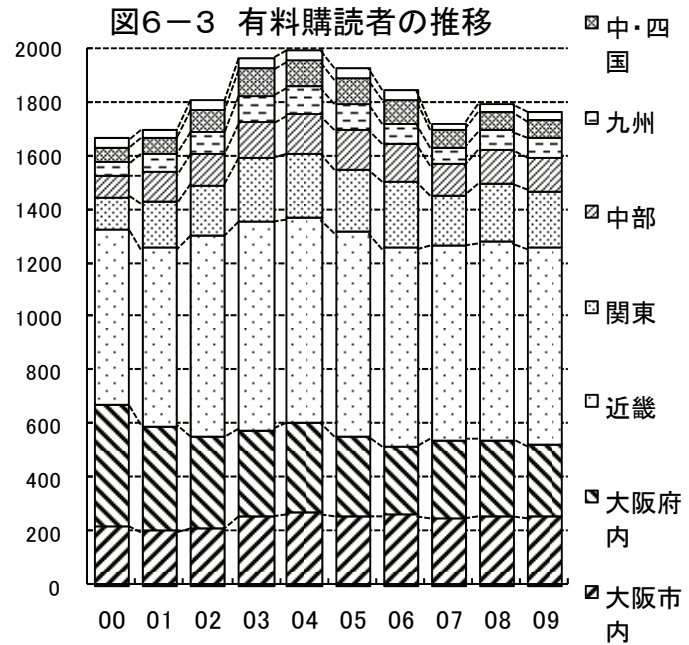
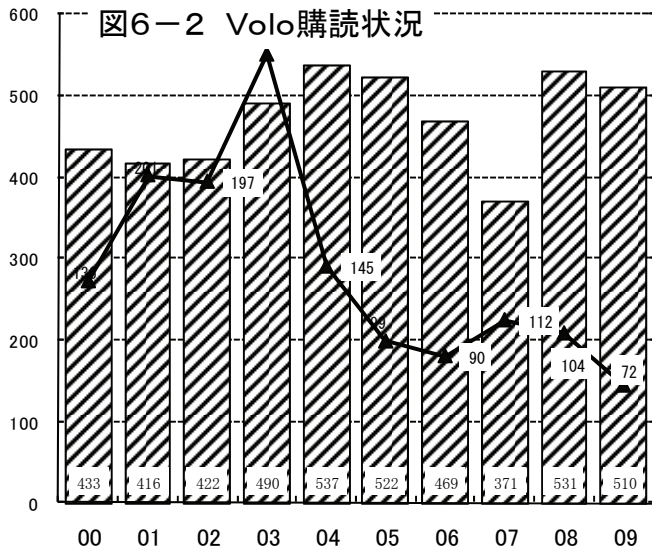


（3）購読者数

2009年度の新規購読部数は72件（対前年度32件減）。内訳は会員19件（同1件減）、非会員53件（同31件減）。

また2009年度末の有料購読部数は1,759件（同31件減）であった。内訳は会員1,146件（同19件減 ※パートナー登録団体（80団体）と団体賛助会員（73団体）の数を含む）、非会員613件（同12件減）であった。

なお、2009年度より年間購読料を4,000円から5,000円に値上げしたが、2007年度分の未回収購読料を2008年度に回収し大幅増収となったため、2009年度の購読料収入510万円は、2008年度実績と比較すると微減となった（対前年度21万円減）。



2. 他の情報提供事業

（1）「英語情報発信強化チーム（Eボラ）」の取り組み

協会の基礎情報の英訳とともに、前年度に引き続いてボランティアマネジメントの英語文献和訳の活動を行った。またEボラから内発的な関心が高まり、多文化共生活動に取り組むチーム「カクテル」も新たに生み出すことになった。

① 翻訳研究会の実施

文献: Steve McCurley and Rick Lynch, *A Guide to Retention Volunteers Keeping*, 2005.

② 協会ホームページの英語ページ2008年度事業報告の更新

（2）「ホームページ」の運用

1996年10月からボランティア・市民活動情報発信のホームページ「ぼらやねん (Volajanen)」(<http://www.osakavol.org/>) を開設し、様々な情報を発信してきた。2010年3月末のアクセス件数は554,466件（09年度は年間51,047件、対前年度224件増。月平均4,254件、同19件増）に達した。

2010年2月にトップページのリニューアルを実施。「ボランティア活動をしたい、相談・募集したい」「講座・研修・サロンに参加したい」など、閲覧者の視点に立った9つのカテゴリーに分け、わかりやすく表示した。



（3）映像製作発信



2007年度から協会事業の映像による記録、発信を行っている。09年度は、チーム紹介映像『トライポッド』を制作、『SHODAN—障害者ボランティア集団』（おおさか行動する障害者応援センター制作）に制作協力し、協会ウェブサイト上での映像配信「ボラビジョン」での公開、映像発信「てれれ」上映会などの媒体に発表した。

3. 書籍の発刊と発行経費の回収

出版事業は、編集を通じて市民活動に関する理論化、体系化を進めると共に、成果を全国に普及し、さらに販売収益は事業資金に役立てられるなど、効果の大きい事業である。2009年度は新しい販売ソフトを導入し、事務作業の効率化と顧客および在庫管理を強化した。

（1）新規／改版の発行図書

① 新規発行

A. 『こうだったのかNPOの広報』の発行

- ・武永勉著 ・B6判、179ページ。2010年3月1日、2000部発行。
- ・NPO向けの広報を丁寧に解説している。

B. 『寝ても覚めても市民活動論』の発行

- ・早瀬昇著 ・A5判、160ページ。2009年3月1日、2000部発行
- ・社会の様々な事柄から「食欲に」市民活動論を導く、独特の「視点」を35本掲載。

C. 『福祉小六法2010』の編集

- ・B6判、739ページ。2009年12月10日、中央法規出版より発行。
- ・社会福祉および市民活動に関する基本的な法令をコンパクトにまとめている。

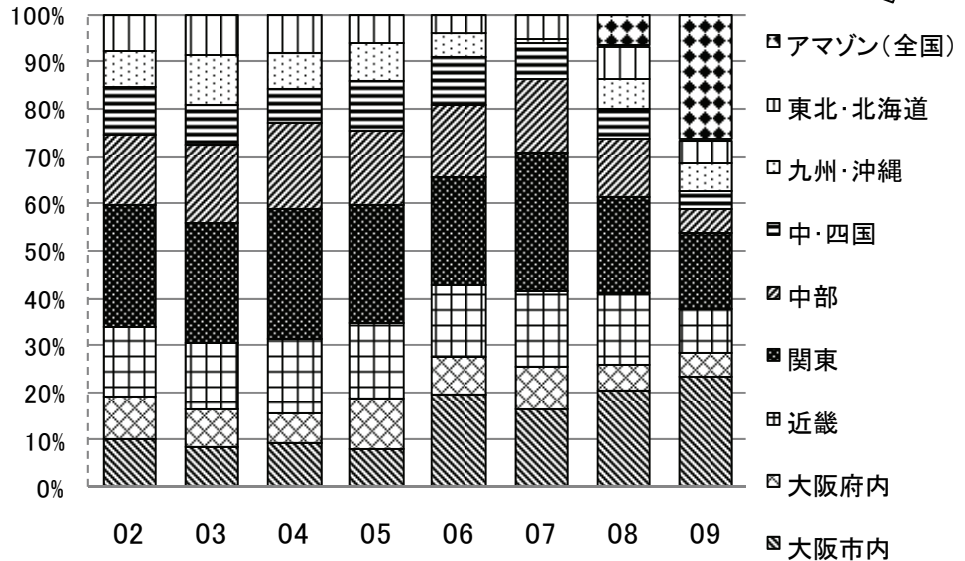


（2）書籍の普及と発行経費の回収

出版活動の財政的自立をめざし、各書籍は実費で頒布している。

2009年度は3,944冊（前年度4,965冊）の利用があり、約586万円（同779万円）分の発行経費を回収した。新刊の発行点数が減っていることから、3年度連続で発行経費の回収額が減少。192万円の減額となった。また発送先は図6-5に示すように全国に広がっており、特に関東地域への発送が83件と最も多い。

図6-5 出版物の出荷地域



※「取次」は便宜上、大阪市内にカウントしているが、全国に配本されている。

① 販売好調図書の増刷

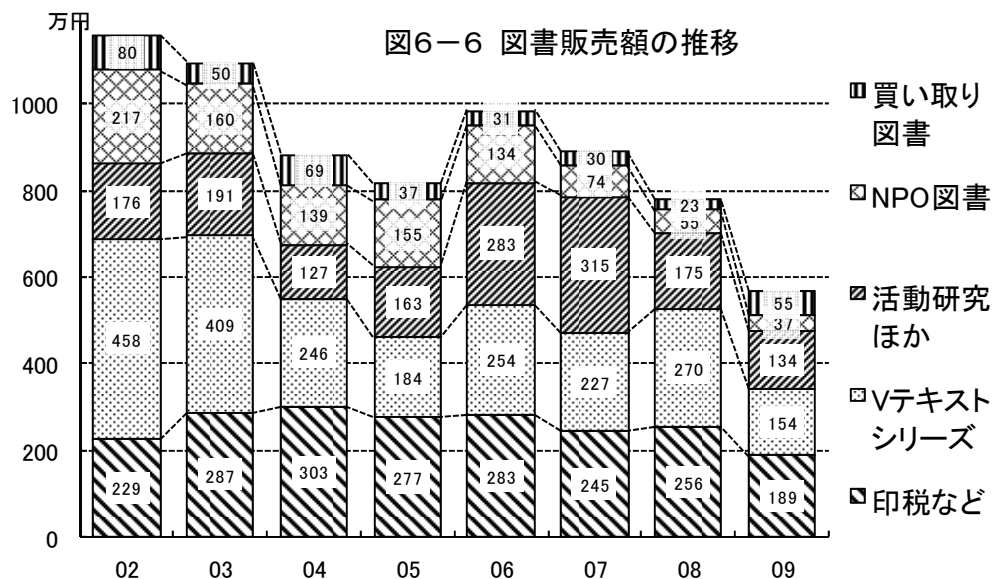
- ・『学生のためのボランティア論』第1版第3刷（2009年10月31日、2500部発行）

② 協会編集書籍からの印税収入

2009年度は『福祉小六法2010』の新規発行と、『福祉小六法2009』『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』2点の増刷により、189万円（前年比65万円減）の印税収入があった。

特に『福祉小六法』は福祉系学生の減少の影響が大きく大幅な減額となった。

図6-6 図書販売額の推移



（3）広報誌・研究誌等への寄稿（事務局員分のみ）

2009年度も広報誌・研究誌などへの寄稿を行った。主なものは以下のとおりである。

- ・日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房、『ボランティア』の理解（早瀬）、2009年7月

- ・太平洋法律事務所『太平洋』2009年夏号、「CSRにこだわる消費を進めるために」（早瀬）、2009年8月
- ・静岡県NPO推進室『ぱれっとコミュニケーション』42号、「NPO法人制度10周年～これからのNPOセクターの飛躍のために～」(早瀬)、2009年9月
- ・大阪信用金庫『だいしんNOW』、4月号「環境に関わるボランティア」(塚本)、5月号「寄付だってボランティア活動」(奈良)、6月号「ウソのような本当の話」(梅田)、7月号「新型インフルエンザ対策で活躍したボランティア」(金治)、8月号「障害者スポーツボランティア」(水谷)、9月号「パレードでボランティア」(永井)、10月号「フリーマーケットでリサイクル」(岡村)、11月号「年賀はがきで地球環境に貢献」(江淵)、12月号「ボランティア歴史散歩～エーデルヴァイス海賊団」(影浦)、1月号「ボランティア活動にも“就活”時期が！」(白井)、2月号「私の経験を生かすボランティア活動」(奈良)、3月号「あいさつから始まるボランティア活動」(梅田)
- ・ぎょうせい『ガバナンス(第106号)』、『協働』の視点から見た公共サービスのあり方」(早瀬)、2010年2月
- ・社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク『これからのSR』、「社会貢献活動とSRはどちらがう？」「CSR報告書、SR報告書とは？」(水谷)、2010年2月
- ・(独)福祉医療機構『いきいきチャレンジ!(第49号)』、「市民活動の原点は個人の“ちから”」(永井)、2010年3月

4. 市民シンクタンク事業

協会では、市民活動を進めるための調査研究事業にも積極的に取り組んでいる。このうち、自治体と市民活動の協働推進施策づくりを第3章で、企業からの受託事業を第5章で報告したが、その他、以下のような研究事業に取り組んだ。

(1)「ボランティアリズム研究所」の開設と事業本格化のための準備

岡本榮一前理事長を所長に迎え、市民活動を支える原理の追求と実践的プログラム開発などの研究などを担う「ボランティアリズム研究所」を開設。設立記念となるフォーラムを開催するとともに、研究所事業本格化に向けた準備に着手。研究誌「ボランティアリズム研究」編集委員会を立ち上げ、研究調査事業として「市民活動年表プロジェクト」チームを結成。

(2)「真如苑・社会貢献アドバイザー委員会」の事務局受託

(宗)真如苑の社会貢献活動に助言する上記委員会の事務局を受託。2009年度は有識者を委員として招聘し5回の委員会を開催した。また前年度にまとめた真如苑の過去15年間の社会貢献活動報告書をベースに外部識者向け報告書を作成した。さらに今後の社会貢献活動のあり方についての協議や個別の社会貢献案件に対する助言などを行った。

5. 学会発表と研究会・審議会などへの参画

(1) 学会発表（事務局員分のみ）

- ・「日本NPO学会（第12回年次大会）」(2010年3月13日～14日、京都・立命館大学)
A3パネル「中間支援組織」で水谷が、E4パネル「ボランティア」で早瀬がモデレーターを務めた。

(2) 審議会、学会役員会などへの参加

上記の他、2009年度に理事長、顧問および事務局員が参加した審議会、研究会および役員を務めている学会などは以下のとおりである。(他章紹介分を除く)

- < 審議会 >
- ・安全安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議・総合戦略部会・委員（早瀬）
 - ・大阪府 高齢者保健福祉計画推進委員会・委員（水谷）
 - ・大阪府 障がい者施策推進委員会・委員（水谷）
 - ・大阪府 地域福祉支援計画推進委員会・委員（水谷）
 - ・大阪府 社会教育委員会・委員（永井）
 - ・大阪市 高齢者施策推進委員会・生活福祉部会・部会長（早瀬）
 - ・ISO/SR 国内委員会・委員（水谷）

- < 学 会 >
- ・日本地域福祉学会・会長(牧里)、監事(岡本)
 - ・日本キリスト教社会福祉学会・会長(岡本)
 - ・日本社会福祉学会「学会賞」審査委員会・委員(岡本)
 - ・日本福祉教育・ボランティア学習学会・常任理事(岡本・早瀬)
 - ・国際ボランティア学会・理事(早瀬) など